

令和5年度 学校経営計画に対する中間評価

石川県立飯田高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 主体的・対話的深い学びにより、知識・技能、思考力・判断力・表現力を育成する。	① 習熟度別の学習指導を推進し、個に応じた学力の伸長を図る。	模擬試験の英数国総合偏差値で60以上10%、55以上20%、50以上50%の3つの項目のうち A：全て達成 B：2つ達成 C：1つ達成 D：達成なし	1年 C 60以上 5.7% 55以上22.9% 50以上40.0% 2年 C 60以上 9.6% 55以上20.5% 50以上39.7%	成果：7月進研模試では、1・2年生ともに中位層は育ってきている。特に2年生では偏差値70以上の超上位層が3名おり、過去4カ年で最多となっている。 課題：1・2年生ともに下位層がやや重い。1年生の上位層が薄い。 改善策：学年会や進路連絡会を通して生徒の学習状況について情報共有し、模試結果に基づいて立てた指導方針に沿って、苦手科目、弱点分野を補強していく。
	② 予習・授業・復習のサイクルを確立し、自律的学習習慣を定着させる。	進路アンケートで授業外での学習時間が学年+1時間の生徒の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	D 1年20.0% 2年 1.8% 3年 1.1%	成果：4月アンケートでは、昨年と比較すると、どの学年も割合が増加している。特に2年生は過去3カ年で最も多い。 課題：学力幅が大きく、学習時間を一律に引き上げるのは難しい。 改善策：授業の充実に継続的に取り組み、隙間時間の活用や自主学习につなげる。また、Classiの活用を通して生徒への適切な声掛けを行い、学習のモチベーションの維持・向上に努める。さらに、他を牽引するような上位層を育成するため、高い目標を掲げ、各学年で学習習慣の確立に取り組む。
	③ 公務員試験に対応できる幅広い知識と情報処理能力を育成する。	公務員模試でのBランク以上の生徒の割合が A：60%以上 B：40%以上 C：30%以上 D：30%未満	D 13.6%	成果：6回の実施のうち安定してBランク以上を達成できる生徒は8名中1名である。 課題：指導方法の共有を徹底する。 改善策：年間スケジュール・教材・資料等を適切にまとめ、学校の指導力を向上させる。
	④ 多角的に考察できる学習課題を精査し、取り組ませることで、思考力を育成する。	授業改善アンケート項目⑥「この授業で学力がつく」⑩「友人と意見を共有することにより理解を深めることができる」の評価が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A ⑥94.8% ⑩95.4%	成果：授業改善アンケート項目⑥ならびに⑩について、A「あてはまる」B「だいたいあてはまる」の肯定的評価の合算が、どちらも90パーセントを超えている。 課題：更に割合を向上させたい。 改善策：PT教員による研究授業を題材とした授業の研修会により、教員の授業力を向上する。
	⑤ 読書を通して、知識や教養を高め、生き方や社会問題を考えることで深い学びにつなげる。	図書室主催のイベントや探究学習などを通じて図書室の年間利用率が A：45%以上 B：40%以上 C：35%以上 D：35%未満	D 11%	成果：地震の被害はあったものの、1学期に校内ブックトークを開催することができた。 課題：震災の影響で本棚の整理がまだ終わっておらず、生徒が通行できないスペースがあり、貸し出し可能な本が限定されている。 改善策：現在、PTA・職員・生徒で期間を設定し棚の整理にあたっている。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判断基準	備考
2 効果的なICT機器の活用法を研究し、各教員の授業力を向上させるとともに、そのノウハウの共有によって学校全体の教育力を高める。	① GIGA校内研修年間計画に基づいて研修を進める。	授業で5回以上1人1台端末を用いた授業をした教員が A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満	A 81.5%	成果：9月時点で目標をクリアしている教員が82%となっている。 課題：今後もタブレット端末の活用を継続していく。 改善策：ICT機器も活用したPT教員の研究授業を活用して、教科研修会を設定する。
	② 生徒の主体的な学習姿勢を涵養するため、タブレットを用いた授業を推進している。	1人1台端末を活用した授業では、主体的に学習しようとする意欲が高まると感じた生徒が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	A 89.2%	成果：肯定的な回答をした生徒が89%となっている。 課題：昨年の92%から若干減少している。 改善策：ICT機器も活用したPT教員の研究授業を活用して、教科研修会を設定する。
	③ ICT機器の活用によりペーパーレス化を図るなどして、業務の効率化を図る。	ICT機器の活用により業務の平準化・効率化が進んだと感じる教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	B 89.7%	成果：情報周知や、資料の共有が進んで効率は上がっている。 課題：ICT機器に追われているという印象を持っている教員がいるようである。 改善策：質問の文言の改善により、アンケートと回答のミスマッチを防ぎたい。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 学校行事や部活動、ゆめかな等の活動を通して、円滑な社会生活を送る資質を養い、人間力を育む。	① HR活動や委員会活動を通して、集団における人間力を育む。	意見交換を行い、協働した取り組みが日常的に出来たと考える生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	A 全体89.8% 1年92.0% 2年90.5% 3年86.5%	成果：全学年で、意見交換を行い協働した取り組みが日常的に出来たと回答していた。 課題：3年生で、あまり出来なかったと11.2%が回答していた。 改善策：文化祭や体育祭でより活発な取り組みができるような環境を整える。
	② 学校行事や部活動における自己目標を明確にして、積極的に取り組む人間力を育む。	学校行事や部活動で自己目標を明確にし、積極的に取り組んだと考える生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上	A 全体89.1% 1年87.0% 2年90.5% 3年89.9%	成果：全学年で、自己目標を明確にし積極的に取り組んだと回答していた。 課題：1年生で、あまり出来なかったと12.0%が回答していた。 改善策：文化祭や体育祭でより活発な取り組みができるような環境を整える。
	③ 挨拶、身だしなみ、交通ルール遵守など、社会生活の基盤を身に付ける。また、生徒一人一人が「いじめのない学校づくり」を心がける。	集団や個々の場面でも、いじめのない学校づくりを意識して規則や規律を守ることが出来た生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	A 全体96.9% 1年98.0% 2年98.1% 3年94.4%	成果：全学年で、いじめのない学校づくりを意識し規則や規律を守れたと回答していた。 課題：「だいたいできた」の回答者が「十分にできた」と回答できるよう、意識を高める。 改善策：学年集会やHR等で、生徒心得を活用した、より効果的な指導を行う。
	④ ボランティア活動や、地域行事への参加を積極的に進め、地域社会の一員として人間力をはぐくむ。	地域行事やボランティア活動を通して地域に関わろうとする意欲が高まった生徒が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	未	後期に評価する。
	⑤ 他者や地域と協働した探究学習を行うことで、学びに対する前向きな心を育む。	「自らが学びの主導権を握り、自律的な学びを進めることができている。」と回答する生徒が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	未	11月24日（金）の「ゆめかなプロジェクト学習成果発表会」のちに評価する。
	⑥ 地域学や、観光ビジネスなどの授業を通して、地域社会との連携を深め、異世代との交流を持つことでコミュニケーション能力を育てる。	異世代の方との交流を深めることで、コミュニケーション能力を高めることが出来たと思う生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	未	9月に行う灯イベントへの参加後（後期）に評価する。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
4 地元中学校や地域社会と連携した取組により、6年間を見通した生徒の成長を図る。	① 各教科の授業や探究学習において地元小・中学校との接続・連携を推進する。	地元小・中学校と連携した授業回数が A：10回以上 B：5回以上 C：3回以上 D：3回未満	未	9月に開催される、中学校連絡会にて中学校の先生方に高校の授業を参観して頂く。また、校種を超えた協働学習の機会を設けることを提案してみる予定。
	② 金沢大学能登学舎やNPO法人ガクソーなど地元外部機関との連携を強化する。	金沢大学能登学舎(市内三崎町)・NPO法人ガクソー(市内飯田町)・探究ルーム(校内、外部の方が滞在しているとき)を利用した生徒の延べ人数が A：100名以上 B：75名以上 C：50名以上 D：50名未満	C 68名	現時点では達成度を判断しないが、5月から8月までの探究ルームの利用実績が生徒68名となっており、年度末までにA評価(100名以上)の基準を容易に達成しそうな勢いである。
	③ 地元産業に貢献する人材育成のため企業見学会や講演会を実施する。	地元への興味・関心や貢献意欲が高まった生徒が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	未	震災等の影響で例年7月に行っていた地元企業見学会が延期となっており判定の材料がない。11月または12月に2年生を対象とした「ふるさと企業を知る会」の実施を予定しておりそのアンケート結果をもとに評価する。
	④ 部活動で身につけた技術を活かし、小中学校との交流を行い、地域に貢献できる人材を育成する。	小中学校との交流行事を通して地域貢献意欲が高まった生徒が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	未	吹奏楽部と野球部が行う行事の終了を待って評価する。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
5 教職員自らが効率的な業務や指導法の改善に努め、ワークライフバランスを実現する。	① 若手教員早期育成プログラムの推進と併せ、研究授業や互見授業により授業改善を図る。	<p>教員として成長できたと感じられる。 (ア)よくあてはまる (イ)あてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)が</p> <p>A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満</p>	<p style="text-align: center;">D</p> <p style="text-align: center;">58%</p>	<p>成果：Dという評価だが、(ア)が58%であり、残りの42%は全員(イ)と答えた。昨年よりも互見授業を拡充することができ、教員間の指導力向上の機会を増やすことができた。</p> <p>課題：若手教員早期育成プログラムの講義や互見授業にネガティブな印象をもっている。</p> <p>改善策：若手教員により興味を持ってもらえるようなテーマをたて、若手教員が「学びたい」と思うような会にすることで、(ア)の回答数を増やす。</p>
	② 授業改善アンケートの結果をもとに授業改善を図り、分かりやすい授業を展開する。	<p>授業が分かりやすいと感じた生徒が</p> <p>A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">95.0%</p>	<p>成果：授業改善アンケートで、A「あてはまる」B「だいたいあてはまる」の肯定的評価の合算が、90パーセントを超えている。</p> <p>課題：この割合を減らさないよう、さらなる向上を目指したい。</p> <p>改善策：ICT機器も活用したPT教員の研究授業を活用して、教科研修会を設定する。</p>
	③ 研修などを通してカウンセリングマインドを涵養し、多様な生徒への指導力を高める。	<p>研修会で得た知識などを実践しようとしている教員が</p> <p>A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満</p>	<p style="text-align: center;">未</p>	<p>後期に評価する。</p>